

藤沢市社会教育委員会議  
令和元年度10月定例会

議 事 録

日 時 2019年(令和元年)10月7日(月)  
場 所 藤沢市役所本庁舎8階 8-1, 8-2会議室

# 令和元年度藤沢市社会教育委員会議10月定例会

日時： 2019年（令和元年）10月7日（月）

午前10時から正午まで

場所： 藤沢市朝日町1番地の1

藤沢市役所本庁舎8階 8-1、8-2会議室

1 開 会

2 議事録の確認

3 議題

- ・「生涯学習ふじさわプラン2021」平成30年度進捗管理について

4 報告

- ・神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会（8月26日開催）について
- ・生涯学習活動推進室運営委員会（7月10日、8月28日開催）について

5 その他

6 閉会

(出席委員)

川野佐一郎・稲川由佳・石川美保子・市川範朗・井沼隆史・岩本将宏・長田祥男

瀬戸内恵・百武三郎・平野まり・本多清弘・三宅裕子・山田勉・渡辺智子

(事務局)

神原部長・齋藤参事・井出主幹・田高課長補佐・渡邊・辻・赤坂室長(東京オリンピック・パラリンピック開催準備室)・相原課長(健康増進課)・横田課長(郷土歴史課)

\*\*\*\*\* 午前10時5分 開会 \*\*\*\*\*

川野議長 　　ただいまから社会教育委員会議10月定例会を開催します。  
このたび2名の方が新しく社会教育委員になられました。本日も出席の平野委員、三宅委員からご挨拶をいただきたいと思います。

平野委員 　　(挨拶)

三宅委員 　　(挨拶)

川野議長 　　続きまして、本日の欠席委員の確認をお願いします。

事務局 　　藤沢市社会教育委員会議規則第4条によりまして、審議会の成立要件として委員の過半数以上の出席が必要とされておりますが、委員定数15名に対して、本日の出席委員は14名、欠席委員1名であることから、会議が成立いたしましたことをご報告申し上げます。

川野議長 　　傍聴者の確認をお願いします。

事務局 　　本日傍聴者はありません。

川野議長 　　資料の確認を事務局からお願いします。

事務局 　　(配付資料の確認)

川野議長 　　7月の議事録の確認をします。何かありますか。ないようなので、確定いたします。

それでは、「3議題」に入りますが、生涯学習ふじさわプラン2021の今年度の進捗管理として、8月から9月にかけて、事業視察と事業担当課へのヒアリングを各グループに分かれて実施していただきました。ありがとうございました。

プラン掲載事業から4事業を抽出して、毎年、社会教育委員会議において進捗管理をしています。今回初めて抽出された事業もあると思いますが、私たち社会教育委員としては、生涯学習ふじさわプラン2021に掲載されている事業に対して、今後、その事業がどのように市民に浸透していくのかという願いを持って、事業担当課への後押しという意味合いも含めて行っています。そのためにはまず、事業担当課へのヒアリングを通して、その事業のことを理解しなければ、なかなか評価をするという立場には立てないということもありますので、グループごとにヒアリングも実施しました。委員から厳しい問いかけが投げかけられた場面もあったかもしれませんが、社会教育委員としての最終的な目的は、先ほど述べたとおりだと思っております。

事業担当課の所属長の方々におかれましては、私たちがこれから講評する事項につきまして、後ほどコメントをいただきますが、是非そういう趣旨で聞いていただきますよう、よろしくお願ひしたいと思います。また、大変お忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。

それでは、配付資料に基づいて、今回の視察・ヒアリングの講評結果について、各グループリーダーから発表していただきたいと思ひます。その前に、事務局から流れについて説明をお願いいたします。

事務局

それでは、本日の流れについてご説明させていただきます。

まず、各グループリーダーの方から、配付した評価シートに基づいて、ご説明をお願いします。終了後、事業担当課の所属長から講評に対するコメント等をお願いいたします。

事業番号順で行いますので、1番目に東京オリンピック・パラリンピック開催準備室の事業担当グループ、2番目に健康増進課の事業担当グループ、3番目に生涯学習総務課の事業担当グループ、そして4番目に郷土歴史課の事業担当グループの順でお願いいたします。

こちらの評価シートは、事前に各課の所属長にもお送りしていますので、内容を全てご説明いただくというよりも、要点を簡潔にご説明いただきたいと思ひます。

それでは、講評発表に移ります。オリンピック・パラリンピック開催準備室のオリンピック・パラリンピックボランティア養成事業からどうぞよろしくお願ひいたします。

岩本委員

オリンピック・パラリンピックボランティア養成事業のグループリーダーを担当しました片瀬中学校の岩本と申します。市川委員、平野委員、西尾委員と私の4名で担当させていただきました。よろしくお願ひします。

オリンピック・パラリンピックボランティア養成事業について、8月30日、セーリングワールドカップのおもてなしボランティアの活動を視察させていただきました。視察終了後にヒアリングも行いました。

担当者からヒアリングを行う中で一番印象に残ったことは、今回ボランティアの1次募集として、リーダー候補を募集したところ、予想を上回る応募人数であったということと、応募された方々のボランティアとして携わろうという意識の高さに、非常に手応えを感じているということ伺いました。

これからこの活動が充実していくためには、応募される方々がどのくらい意識を高く持っておられるかということが大事だと思いますし、また、都市ボランティアですので、この競技に興味があるから、この競技のボランティアをしたいというのはまた別に、会場までの案内等、会場外でご活躍いただくという意味で、藤沢を盛り上げたいという意識をお持ちの方がたくさんいらっしゃるということを感じられたことが非常に印象的でした。

活動は、藤沢駅前、小田急の片瀬江ノ島駅、江ノ電の江ノ島駅、湘南モノレールの湘南江の島駅、それから、江の島島内で行われているということでしたが、当日は小田急の片瀬江ノ島駅から江の島島内にかけてのボランティア活動と、ワールドカップの競技会場内も視察させていただきました。

駅前に大変目立つ形でテントを設置して、ボランティアの方々が活動されていましたが、何の活動かが少し分かりにくい部分がありました。ボランティア活動として案内をしている、ということがもう少し明確になるとよかったですと思います。

課題としては、いろいろなアンケートを見ると、若い世代が総じてボランティア活動への関心が余り高くないという結果が出ています。昨年度、都市ボランティアの説明会に参加しましたが、参加している方々はやはり年配者の方が多かったという印象がありました。そのため、果たして若者をはじめ、広い年齢層の方がボランティアに参加されるだろうかと思いましたが、ヒアリングの中で、応募者の年齢層はそれほど高い傾向はなく、平均的に応募があるということを確認しました。また、ボランティアの応募資格がない低い年齢層へ裾野を広げるという意味で、子ども主体の都市ボランティア体験事業を計画しているという話も聞くことができました。

それから、セーリング競技に関しては、天候に左右される部分から、他の競技と違って、競技の開始時間や進行状況がなかなか明らかにならないということがあり、ボランティアとしてどのように案内を行うのか非常に難しいという話もありました。今年度のセーリングワールドカップの経験を生かして、来年度の東京2020大会において、充実した案内やおもてなしに反映していただくことを期待します。

いずれにしても、この東京2020大会をきっかけに、藤沢市のボランティア活動、また、地域・市民活動の活性化が一番の目的であり、レガシーであると思いますので、今回、文化として定着することを目指して、他の部署との連携を密にして進めていくということが重要であるように感じました。

情報発信は積極的に行っていただき、ここへ来たらこのような案内を受けられるといったように、藤沢市に来られた方々が安心感を得られると良

いと感じました。

また、ボランティア自体が文化として根づくためには、裾野の拡大が必要になってくると思いますので、先ほども述べましたが、子どもたちへのボランティア体験等も進めていただければありがたいと思っています。

視察当日は非常に暑い日でしたが、それ以前も連日猛暑が続いていました。当日、会場にはテントが並んでいましたが、3方向を囲まれて、入り口だけが開いているような形で、風通しも気にかかる中で、ボランティアの方々は汗をかきながら活動されていましたので、体調管理のため、暑さ対策についてもご配慮いただきたいと思います。

以上、オリンピック・パラリンピックボランティア養成事業についてご報告させていただきました。

川野議長

ありがとうございました。

それでは、今の発表に対して、東京オリンピック・パラリンピック開催準備室の所属長からコメント等をお願いします。

赤坂室長

東京オリンピック・パラリンピック開催準備室長の赤坂です。よろしくお願いします。貴重なご意見をありがとうございました。

現在、都市ボランティアという名称で事業を行っておりますが、正式にシティキャスト藤沢という名称に変わりました。これは全国統一で、シティキャストに地域名がつく呼称になります。

ボランティア活動の様子が目立ちにくいというお話がありましたが、大会本番では、シティキャストは全国統一のユニホームが配付され、帽子から靴まで全て統一したものになります。メディアでも取り上げられる中で、そのユニホームを見れば、ボランティアの方であるということが認識していただけるかと思っております。

東京2020大会のセーリング会場である藤沢市は、競技会場の中で唯一の観光地になります。他は競技会場のみですが、藤沢市は年間で約1,800万人もの観光客の方がいらっしゃる江の島で、セーリング競技を行います。開催期間中は観戦客と観光客、海水浴客まで来られます。前回の1964年は、10月10日で海水浴シーズンではなかったため、今回3つの目的別の客層の皆様にお越しいただくということで、私たちは初めての体験をするという点でも、シティキャストの皆さんには頑張ってもらいたいと思います。

ご指摘のあった熱中症対策は、現在県と具体的に話を進めています。対策として、テントだけでいいのか、ミストシャワーや飲み物の提供等、様々な形で、毎日5時間程度ボランティア活動をしていただく皆さんの体調管理をどのようにするのかということが課題だと思っています。

今後も、いろいろなご意見を聞きながら、また、現在、ラグビーワールドカップが開催されており、横浜市で活躍をされているボランティアの皆さん

んの状況、声を市の担当者から確認し、生かしていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

川野議長

ありがとうございました。

今のコメントに関して、委員から質問があればお願いします。

石川委員

昨年、私の子どもがボランティア募集の説明会に伺ったときに、年齢的に応募が難しいという話があったと聞きました。高校生、中学生を対象にした事業を行うという計画があるという話がありますが、何か進めていますか。ボランティア活動に意欲を持っている子どもたちが、その意欲をそがれてしまうようなところがあるので、何か取組がありましたら教えていただきたいと思います。

赤坂室長

応募年齢18歳以上というのは全国統一のルールでして、なかなか高校生が参加できない現状があります。藤沢市で説明会を開催したときに、是非参加したいという高校生、中学生がたくさんいらっしゃいました。

今、藤沢市としては独自に、アイデアソンということで、約1万6,000人いる藤沢ビックウェーブの応援団の皆さんに対して、中高生ならではの企画ができないかということを検討していただき、10から20の企画が出ています。先月、その事業提案があり、市が助成金を出し、皆さんで企画から運営まで行っていただくということで、現在、7つの事業が進んでいます。新聞で見た方もいらっしゃるかもしれませんが、1つは紙芝居ということで、1964年のヨット競技時に、メダルよりも溺れている競技者を助けたという話を、気運醸成と一緒に世界の皆さんに日本文化である紙芝居で発信する、という活動をされている方等がいらっしゃいます。この活動に関しては、年齢は関係ありません。

このように発信は行っていましたが、伝わらなかったのは私たちの反省点だと思います。ただ、いつでもいろいろな企画案は受け付けておりますので、一緒に盛り上げていければと思っていますので、よろしく願いいたします。

川野議長

続いて、健康増進課の健康づくりに関するボランティア養成事業に関して発表をお願いします。

本多委員

担当させていただいたのは、私、本多と、川野議長と長田委員、石川委員、山田委員の5名です。

まず、目標の達成度ということでは、委員5人の評価が分かれたところもありましたが、全体的に3という形で評価させていただいています。

9月3日、健康づくりサポーター等交流会を視察させていただきました。その翌日に事業担当課へのヒアリングを実施させていただきました。自己

評価は2ということでしたが、私たちとしては、それ以上の成果を上げられているのではないかという意見でした。ただ、事業として、今はボランティアの養成に重点が置かれているということでプランに記載がありますが、視察・ヒアリングを通して、それが事業の本来の趣旨なのだろうかという感想を抱きました。

ヒアリングの中で、現場の方からサポーターの位置づけは、行政が実施するイベントの支援者として捉えているという話もあったので、目標として掲げているボランティアとしての有効活用の検討とともに、サポーターの位置づけを見直して、目標の再設定が必要なのではないかと感じました。

課題認識及び課題への取組については、各委員からの提案をまとめています。シートに記載していない内容を簡単にご報告しますと、サポーターの有効活用を目標にした場合、サポーターの数を評価指標にしていますが、質の向上を目的とした育成や、各サポーターが身近な地域で活動できるようにするために場を提供することや、地域との連携をコーディネートするようなサポートを検討してはどうか、という提案が出ています。交流会で、サポーターの方が非常に熱意を持ってやられている姿を拝見したこともあり、そのような支援体制も課題ではないかと思えます。

一方で、サポーターの位置づけを事業担当課が考えているような「イベントの支援者」とするのなら、我々が視察した交流会のほかに、年間でおおよそ33のイベントが行われているという話があったため、行事に参加された方の満足度向上のために、サポーターを活用していくということも育成内容の見直しで実施すべきではないか、ということも提言させていただきました。

総合評価としては、健康増進課とサポーターの方たちの交流は着実にされていて、関係も良好で取組に関しては非常に評価できるというのが委員全員の感想でした。今後の活動に関して、シートの記載は委員5人の抜粋ということでまとめていますので、別途各委員の個別の評価シートもお渡しさせていただいています。是非ともご一読の上、ご参考にさせていただければと思っております。

川野議長

ありがとうございました。

それでは、今の発表に対して、健康増進課の所属長からコメント等をお願いします。

相原課長

健康増進課課長の相原と申します。よろしくお願ひいたします。

今回は、貴重な機会を設けていただき、また、事業の視察・ヒアリングを実施していただき、ありがとうございました。

健康増進事業における人材育成というのは、とても大きな柱の1つとなっております。市民が自発的に、そして、人に対しても影響力のある人に

なっていていただくというのが最大の目的になっております。自ら取り組むと同時に、それを人に伝えていくという人材育成を行っています。

サポーターの養成事業につきましては、今、委員からご意見をいただいたとおり、イベント等の支援者としてお手伝いをするだけの人なのか、そして、自ら取り組むと同時に、どこまで自主性を育てていけるのかという部分が課題となっているところです。

サポーターは敷居の低い講座となっております。まず、自ら取り組むだけでもいいというところから始め、そして、可能であればお手伝いしてくださいという形のボランティア養成になっています。ただ、ボランティアとしての気持ちがある方については、自主的な活動につながっております。かわせみ体操を広めている一部の方については、年間300回以上開催し、身体活動を普及するということにまで至っている方がいらっしゃいます。

まずはお手伝いからという方と、自主的に地域で活動するためにはどうしたらいいかという方のように、意欲に違いがある方たちの支援の入り口が、ボランティア養成講座、そして、健康づくりサポーター等交流会になっています。ただ、少し目的が分かりにくいというところは、ご指摘のとおりですので、どのようにこの事業を評価していったらいいのか、どこに到達点を持っていけばいいのかということについては、再考させていただければと思います。

自ら取り組む健康づくり、そして、みんなで取り組む健康づくりという名のもとに自主性を育てるとともに、それを人から人へ伝えていくという手法を使って、健康づくりの推進に今後も取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

川野議長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの報告とコメントに対して、質問等がございましたらお願いします。

長田委員

今回視察等をさせていただき、健康増進課が関わっている問題は、全市的に取り組まなければいけない課題でもあると思います。それにあたっては、健康増進課と他の課や部署が連携し、情報交換をしていかないと、大きな成果は得られないのではないかと個人的に感じました。

今後、社会教育委員としても、コーディネーター的な立場で、いろいろな関係機関等とのつなぎ役という部分を担っていきたいとは思っていますが、健康増進課として、連携については今後どのようにお考えなのかお聞かせください。

相原課長

健康増進課では、健康寿命を延ばす、そして、いかに健康で長生きしていただくかということを達成するという、とても大きな目標を抱えていて、

具体的な取組を行っているところです。健康に感心のある人は一部なので、意識や関心のない人にいかに健康行動を起こしていただけるか、というのが最大の課題と感じる部分です。教育もスポーツもしっかりで、それらに全く関係ない人も含め、さまざまな人にさまざまなところで行動変容が起こるように、食の部分や環境整備が求められているところです。おっしゃるとおり、1つの分野だけではなく、多分野との連携が必須になります。

現在も運動、スポーツに関しては、スポーツ推進課と連携しておりますし、公民館ともさまざまな事業を行っているところですが、今後につきましても、連携を強化できるようにということで、リーディングプロジェクトを立てて、庁内一丸となって進めているところです。また、現在、健康増進計画の中間評価の見直しにも取り組んでいます。

川野議長

それでは、次に生涯学習総務課の生涯学習大学市民講師コース事業について発表をお願いします。

瀬戸内委員

グループリーダーを務めました瀬戸内と申します。よろしくお願いいたします。

8月27日に、渡辺委員、井沼委員と、退任されました金子委員の4名で藤沢市生涯学習人材バンク登録者サロンミーティングを視察してまいりました。評価の内容については記載のとおりですが、そのほかに、実際の実施内容や、当日に交わされた意見について、補足説明をさせていただきます。

サロンミーティングの趣旨は、ふだん、個別で活動している人材バンク登録者の横のつながりをつくったり、登録者同士の情報交換をしたり、講師同士でコラボレーションする機会につなげるためのものです。今回、視察したのは第2回目でしたので、これからいろいろな検討の余地があるのではないかという意見も出ております。

サロンミーティングは、毎回、生涯学習総務課からオファーを受けた登録者のうち1名が講師を担当し、参加者にレクチャーをする講習会と、その後、講師同士の交流を目的としてグループワークやミーティングを行うという内容です。当日は参加者が6名で、学校やNPOで既に活動していて、それをボランティアとして市民に還元したいという方が集まっていました。

視察を終えて各委員からは、登録者は普段、個別で活動することが大変多いので、横のつながりがつくりにくい、そういったところでサロンミーティングは是非やるべき、大変有意義であるということや、講義形式ではなく、気軽に参加できるという声があり、非常に評価が高かったように思います。

登録者を年齢別に見ると、70代に続いて、30代から60代の方がほぼ同数で、30～40代の方にも参加を促してはどうかという意見がグループ

内で出ました。それについては、案内の時点で、趣旨やターゲットをもっと明確にすれば、より高い効果が得られるのではないかという意見が出ました。

また、目標は人数等の数値ではなく、参加者の満足度等ではかるのはいかがかということも出ました。

事前に委員の皆さんから、講師の活動を見える化することについて、いろいろご質問いただいていたかと思いますが、スペースの確保が難しいことや、登録者1人1人を見える化するためには、画像を撮りたいけれどもなかなかその時間がないといった課題があるように思いました。

現在、私は生涯学習活動推進室運営委員会に、社会教育委員会議から出ておりますが、今回の課題について、幾つか委員会でも意見が出ておりますので、随時ご報告ができればと思っています。

川野議長

それでは、今の発表に対して、生涯学習総務課の所属長からコメント等をお願いします。

事務局齋藤参事

生涯学習総務課の齋藤です。よろしくお願いいたします。

お忙しい中、サロンミーティングに足を運んでいただき、ヒアリング等を含めてご協力いただきまして、ありがとうございます。また、本日も貴重なご意見等をいただきまして、ありがとうございます。

この4月から、藤沢公民館・労働会館等複合施設として設置されたFプレイスに、生涯学習活動推進室という形で活動の拠点を設けさせていただき、生涯学習大学や人材バンク等、様々な事業を行わせていただいております。

そうした中で、今お話しいただきましたように、人材バンクにご登録いただいている方の高齢化が進んでいるということもございます。今後、若年層も含めて、活動の場を提供するところでは、課題として認識しておりますが、いかに足を運んでもらうか、興味・関心を持っていただくか、現在検討している状況です。

生涯学習の拠点となる場所ができましたので、人材バンクに登録している方をいかに市民の皆様を知っていただくかということで、講師の活動紹介として作品等を展示しています。登録名簿を冊子として発行するほか、学べるカフェという形で、講師の方に事業にご協力いただく等、今後も周知の機会を捉えて取り組んでいきたいと思っています。

また、生涯学習活動推進室自体の認知度を向上させるためにも、根本的なところのPRがまだまだ不足しているところもありますので、周知に努めてまいります。

川野議長

ありがとうございました。

評価シート記載の委員評価が3.5となっていますけれども、4に近い3.5

なのか、3に近い3.5なのかによって大きく意味合いが違ってくると思いますが、いかがでしょうか。

瀬戸内委員

グループ内に2と評価した方はいらっしゃらず、3と4に分かれた結果で平均をとりました。

川野議長

それでは、ただいまの報告とコメントに対して、質問等がございましたらお願いします。

特にないようですので、最後に、郷土歴史課のふじさわ宿交流館事業について発表をお願いします。

山田委員

グループリーダーを務めさせていただいた山田と申します。

今回は、百武委員、稲川副議長と3人で8月24日にふじさわ宿交流館を訪問させていただきまして、遊行寺近辺の無料ミニガイドとごんちゃん  
の紙芝居の視察と施設内を見学の後、ヒアリングを行いました。

事前に情報をいただいた段階では、印象として、直近の来館者数の目標は常に達成し続けているけれども、この状況を今後どのようにしていこうかというところが余り伝わってこなかったもので、来館者数が右肩上がり  
で数字が上がるというのは良いとしても、それをどのように膨らませてい  
ているのかというところを少し確認したいという思いで、期待値を軽く膨ら  
ませて訪問させていただきました。結論から言うと、その期待値を超える  
印象を受けたということが、今回の事業を視察・ヒアリングを通して感じ  
た部分です。

来館者数を増やしていくために、イベントをたくさん行っています。イ  
ベント内容に関しても、テーマ性を持って来館者を呼び込んでいます。来  
館者数の見込みを担当者の方も大体見据えていて、そこからしっかりと人  
を集客できているということが伝わってきましたので、今回委員評価とし  
ては4と記載させていただいています。非常に工夫をされていましたので、  
すばらしいなと思った次第です。

車が停められる立地ではない中での集客や、商店街や小学校との連携  
にしっかり取り組んでいる工夫が、ヒアリングで確認できました。そのた  
め、課題認識のところに関して、評価を3にさせていただいています。

ヒアリングの中で、貴重な資産をどのように次の世代へ伝えていくかとい  
うところを、SNSによる発信を含めた工夫ができてくると、より広がりが見  
えてくるだろうという話が出ました。リピート率の高さや交流館自体の施  
設の良さ等、今後もしっかりと生かしていただければ良いと思いました。

川野議長

それでは、今の発表に対して、郷土歴史課の所属長からコメント等をお  
願いします。

横田課長

郷土歴史課課長の横田です。

暑い中、ふじさわ宿交流館までいらしていただきまして、まことにありがとうございました。今回は、課題認識や事業への今後のご提案等もいただき、ありがとうございます。

評価シートの記載のうち、特に総合評価の中でご提案いただいた内容を中心にお話したいと思います。次世代への継承を考慮した事業ということで、小学校、中学校、高校との関係や、リピーターの方に対する事業の充実が取組として挙げられます。

小学校に関しては、施設見学の受け入れの周知ということで、昨年12月に小学校長会で説明をさせていただきました。2月に石川小学校が本庁舎の見学に合わせて、交流館に立ち寄っていただきました。3クラス約100名の児童の来館でしたが、館内に展示されている資料や浮世絵の説明、3DCGの体験等をしていただきました。引き続き、小学校長会等への周知を図っていくとともに、自主的な学習を促進する教材づくり等も検討していきたいと思っております。また、生涯学習出張講座のメニュー化なども検討していきたいと思っています。

小学生に関しては、社会教育の場としての活用も重要と捉えております。8月28日、29日には、藤沢市みらい創造財団が藤沢青少年会館事業、「遊行寺に泊まろう」を行い、小学校4年生から6年生まで約30人が交流館に来館し、藤沢宿について学びました。

次に、中学生に関しては、評価シートにキャリア教育について、コメントをいただいておりますが、交流館では経済部産業労働課と連携して、職人体験まつりや藤沢マイスター事業を行ってまいりました。ただ、労働会館を建て替える間の代替として行っていたため、今年度開設されたFプレイスに事業が戻りました。これまでの2年間の成果を生かして、どのようなことができるかということを検討していきたいと思っています。

高校生に関しては、5月11日に藤嶺学園の茶道部にお茶会を開いていただきました。その様子などは学校のブログに写真とともに公開されており、今後も、他の文化部とともに交流を図っていききたいと思っています。

最後に、リピーターに関しては、交流館のリピーター率が40%ぐらいということがアンケート結果として出ていますが、引き続き来ていただくための付加価値ということで、指定管理者の観光協会は観光誘客という得意分野があり、市との役割分担の中で、展示や歴史的な講座を行っています。展示室の定期的な入れ替えと、遊行寺宝物館での企画展を多く行っていますので、そうした事業と連携して、リピーターの方たちに満足していただけるような事業にも取り組んでまいりたいと思っています。

川野議長

ありがとうございました。

4つのグループからの発表と、それに対する各事業担当課の所属長からのコメントをいただき、多少の意見交換をさせていただきました。

4つの事業とも講評の中で、ボランティアや人材育成、サポーターという言葉が出ました。自主的に事業に参加してくださる方の学びの機会、あるいは、資質を高めていくための方法等について、共通した課題が出されました。

参加者の年齢層が高い傾向や、若年層の参加がなかなか得られないといった課題はたくさんありますが、今こそ藤沢市民の自治能力を生かし、まちをつくっていきこう、そして、まちを愛する市民を育てていきこう、そういった市民の力が問われているのではないかと思います。

一見、外側から見ると、若い人たちが参加して活力があったり、あるいは、子どもたちが生き生きと次世代を担うための能力を身につけているように見える素晴らしい取組があります。しかし、住民層そのものが高齢化し、人口も減少している背景がある中で、高齢者だから多分できないだろう、だめだろうということではなくて、年代が高くなっても、何かやりたいという気持ちを大切に、意欲のある人たちに期待するという視点を、行政も市民も意識として持って、もっと働きかけをしていくべきではないかと感じました。

郷土歴史課の事業の講評にあった、次世代に伝えていく、あるいは良さを発見していくということは、文化的・歴史的な意味では、高齢者の方々がより取り組むべきことなのではないのかと思います。子どもたちに直接イベント等を提供するのも良いことですが、社会教育の分野、生涯学習の分野から言うと、自主的に藤沢の歴史文化、郷土を研究する市民グループを育てて、それが事業を下支えしてくれるような効果につながる取組を進めていただきたいと思います。

以前、旧藤沢公民館を訪ねたときに、現在ふじさわ宿交流館が所蔵しているような資料や、歴史的史料を発掘し蓄積していったという話を伺いました。それはすごくすばらしいことで、新しい公民館に引き継がれているのかどうか分かりませんが、公民館には歴史や文化を保存していく役目もあることから、是非、地域住民の自主的な力をもう少し育てていくような観点を持っていただければありがたいです。

東京2020大会については、選手やボランティアの健康管理等についてはもちろん配慮されていることと思いますが、藤沢市は観光地での開催になりますから、当然、海外から多くのお客さんが来て、私たちが一生懸命おもてなしをしている一方で、雰囲気や壊すような行為も起こりうるのではないかと思います。そうした対応も検討事項に入れておいていただきたいと思います。

健康づくりに関するボランティア養成事業に関しては、様々な機関、団体とのネットワークが重要という話がありました。藤沢市の姉妹都市である松本市は、健康づくりと生涯学習を上手にマッチングして、市のテーマとして掲げています。健康長寿都市でもあり、公民館の活性化をうたい地域づくりもしています。現地で様々な話を聞くと、藤沢市と似ているところが

あります。保健師の活動や、公民館の職員、医療・介護職、あるいは福祉職を含めて、地域にネットワークを構成しようとしている活動に学ぶということもまた大事なのではないかということを感じました。

最後に、生涯学習大学は非常に歴史のある事業ですが、一旦形ができると、参加者にとっては堅苦しく、参加しづらいという声が聞かれることもあり、これは生涯学習のあらゆる事業で言われています。

社会教育ではなくて、生涯学習と呼ぼうということで、文部科学省も力を入れて、生涯学習とまちづくりをテーマに現在も展開しているわけですが、その背景に、社会教育という言葉が非常に堅苦しいということがあったのではないかと思います。しかし、生涯学習と名前を変えても、やはり制度化してある程度固定化していくと、参加者にとっては少し堅苦しくなる場面が出てくることを最近感じています。

そういう意味で言うと、歴史ある藤沢の生涯学習大学が1つのターニングポイントを迎えていることも事実だと思いますので、是非運営委員会等で議論をし合って、次世代に誇り得る取組として、大事にしていくべきではないかと思いました。

現行のプランは令和3年度までということで、事業によっては、来年度も進捗管理を継続するものもあるかもしれませんので、よろしく願いいたします。

続きまして、「(4)報告」に入ります。瀬戸内委員から、生涯学習活動推進室運営委員会の報告をお願いします。

瀬戸内委員

7月10日と8月28日に生涯学習活動推進室運営委員会に出席してまいりましたので、ご報告申し上げます。

第1回目と第2回目で、前年度実施事業と今年度の実施計画について説明をいただきました。内容については資料に記載のとおりです。

先ほどの講評と重複しますが、人材バンク登録講師の活動の見える化に関しては、アプローチの方法やSNSの有効的な利用、団体の利用の検討について意見が出されました。また、他の委員から、この推進室を誰に利用してほしいのか、施設のあり方の目標は一体何か、といった施設としてのコンセプトが分かりにくいので、まずコンセプトを明確にして、その上で対策を考えてはどうかという意見が出ました。

資料の最後に記載しておりますが、藤沢市への転入者層でも多い、40代から50代の勤労・子育て世代をターゲットにした事業が、今後生涯学習活動推進室で企画されています。社会教育委員会議でも常に話題に上がっている年代かと思しますので、この事業についてはまたご報告させていただきますので、是非注視していただければと思います。

川野議長

ありがとうございました。

次に、稲川委員から神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会につい

てご報告をお願いします。

稲川副議長

資料No. 2と資料No. 4をご覧くださいと思います。

8月26日に神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会に、石川委員と私の2名で出席いたしました。式次第につきましては、資料No. 4のとおりになっています。

当日の講話では、日本大学文理学部教育学科教授の佐藤晴雄先生に「地域に貢献する社会教育」と題して、お話をいただきました。これに基づいて、グループ協議を行い、協議内容の発表、まとめという形で研修会は進みました。ちなみに、佐藤先生は、1999年から2006年まで藤沢市の社会教育委員会議の委員及び議長を務めた方です。研究対象は、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動などです。

講話は、学校と地域との連携に関する内容で、今までは学校を支援する形で文部科学省が設置を奨励していた学校支援地域本部が、学校の支援だけではなく、地域と学校の協働を主にした形に変わっていくことや、活動内容を4つのタイプに分けて、学社融合とはどのようなことなのか、また、地域連携は子どもの学びを豊かにするという言説で、その意義と学校教育と社会教育の壁をどのように取り払っていくか、また、その有用性について語られました。それを踏まえて、社会教育委員はどのように地域学校協働活動に関わっていけばよいかということになりました。

事例としては、厚木市社会教育委員会議の議長でいらっしゃった青木信二さんの活動を取り上げてお話しいただきました。厚木市の場合は、社会教育委員会議の取組として、地域ぐるみの家庭教育支援を行っているとのこと。その内容から、どのように地域と関わっていくのか、その活動をもとに、汎用性のある活動と課題について取り上げられました。

その後、グループに分かれ、講話をもとにして協議を行い、グループ発表の後にまとめとして、鈴木会長、佐藤先生からの講評がありました。社会教育法も改正されて、学校との関わり方、社会教育を取り巻く状況も、非常に変わってくるであろうというお話がありました。

感想としては、藤沢市が地域学校協働活動にこれからどのように取り組んでいくのかということが気になりました。藤沢市は三者連携をはじめとして、様々な形で学校と地域が連携しながらいろいろなことに取り組んでいる地域もありますし、社会教育法が変わって、学校と地域が協働していくという形になっていますが、今後、藤沢市ではどのように反映されていくのだろうかということを感じました。

川野議長

ありがとうございました。

現在、日本全体で地域学校協働活動の取組を進めていますけれども、神奈川県全体がコミュニティ・スクールについて、やや取組が遅いという中で、藤沢市は1つも設置がありません。

社会教育委員会議では、生涯学習ふじさわプラン2021の平成30年度の進捗管理はここで一段落しますが、今年度のこれからの定例会では皆さんで話し合い、地域に貢献する社会教育とは何か、藤沢の社会教育はどうあるべきかというテーマに通ずるところがありますので、コミュニティスクールの問題も今後取り上げていきたいと思っています。

続きまして、「(5)その他」に入ります。

稲川副議長に委員を務めていただいている藤沢市の次期教育振興基本計画の策定委員会でまとめた素案について、市民に対してパブリックコメントを実施するそうです。それについて、担当課から説明をいただきます。

教育総務課職員

配付した資料について教育総務課から説明させていただきます。

第2期藤沢市教育振興基本計画が今年度で終了することから、第3期の計画を策定するに当たり、外部の委員で構成されております策定委員会を立ち上げまして、諮問させていただきました。その策定委員会で稲川副議長に多大なるご協力をいただいております。ありがとうございます。

策定委員会で答申をまとめ素案をつくり、議会などへの中間報告を経て、現在パブリックコメントを実施しているところです。今後は、パブリックコメントでいただいた意見をもとに修正を加え、施策をひもづけて、計画として策定していく予定です。

本日は、社会教育委員の皆様にはパブリックコメントに是非ご協力いただければというところでのお願いです。

それでは、素案の内容について説明をさせていただきます。

素案の前半は、計画を策定してからのこれまでの経過や、藤沢市の教育を取り巻く現状や課題などを記載しております。

12ページをお開きください。第2期計画と第3期計画の変更点を記載しております。第2期では8本あった基本方針を、第3期では5本としております。皆様に近いところでは、社会教育や生涯学習関連の柱は、第2期では基本方針4～6の3つを、第3期では、基本方針4に1本化し、人生100年時代をキーワードにしてまとめております。

13ページは、第3期の体系図になっております。14ページ以降で、それぞれの項目の詳しい解説、説明文を加えております。

例えば、こういう視点が入ったのはよかった、逆にこういう視点が漏れているのではないかと、こういうキーワードを入れたほうがいいのか、あるいは、こういった事業が位置づけられることを期待する等、皆様の視点、あるいは、それぞれのお立場からご意見をいただければ大変ありがたいです。

川野議長

ありがとうございました。

稲川副議長、補足はありますか。

稲川副議長

今説明していただいたとおりで、パブリックコメントで意見が集まった後、12月に最終的に答申するというスケジュールです。

私は2回目の策定委員会から出席させていただいています。社会教育、生涯学習は藤沢市の中で重要な教育の柱の1つということで、今回、社会教育委員会議から代表して出席させていただいています。

会議の中ではいろいろな意見が出まして、最終的にこのような形にまとまりました。特に人生100年時代を見据えた生涯学習社会を目指すということで、社会教育委員会議でまとめた生涯学習ふじさわプラン2021の中でも、いつでも、どこでも、誰でも学べるという、人生100年時代を見据えた生涯学習の充実という形で、こちらに反映されているのではないかと考えておりますし、5番目の「すべての子ども・若者への学びのセーフティネットを構築します」については、会議の中でも、ニートやひきこもりの方たちにどのように手を差し伸べるかということで、教育か福祉かという議題も議論され、このような形にまとまって、非常に良かったと考えております。

川野議長

教育振興基本計画についての市民参加の機会はパブリックコメントだけですか。市民集会や地区別説明会等を行うのでしょうか。

教育総務課職員

特に検討しておりません。パブリックコメントで皆様のご意見をいただくようになります。

川野議長

地域によっては、教育振興基本計画といいながら、生涯学習のことに触れていないところもあって、学校教育基本計画ではないかと批判されたところもありますから、一部でも生涯学習の項目、目標が入っているということについては、より評価すべきかと思えます。中身をどう充実していくかということですので、皆さんも是非ご意見をお願いいたします。

提出したパブリックコメントに対する個人へのフィードバックはあるのでしょうか。

教育総務課職員

各個人への回答は予定しておりませんが、いただいたご意見を体系的にまとめ、市としての考え方をホームページ等で公表する予定です。

川野議長

ありがとうございました。

それでは、事務局からその他連絡事項があればお願いいたします。

事務局

藤沢市教育文化貢献者感謝会についてですが、11月3日開催予定で、事務局の教育総務課から皆様に案内状が既に届いていらっしゃるかと思います。ご確認いただきますよう、よろしく願いいたします。

次に、11月の上旬に第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大

会が開催されます。こちらは川越市が会場で、「あなたはどうか生きる？ 人生100年時代！」を主題に、講演会、シンポジウム、分科会等が2日間にかけて行われる予定です。藤沢市からは、川野議長に代表して2日間ご出席いただくこととなりました。次回の定例会は11月に開催を予定しておりますので、その際に川野議長から大会のご報告をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

最後に、神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会が11月14日に小田原市で行われる予定です。今後、県から市の事務局宛てに開催について連絡が来る予定ですので、県からの連絡が届き次第、皆様に情報提供させていただき、出席の取りまとめをさせていただきたいと思っております。

川野議長

是非積極的なご参加をお願いしたいと思います。

用意された議題はこれで全てですが、私から指名させていただいて、近況や本日の議題に関する意見等をお話いただきたいと思っております。

それでは市川委員と渡辺委員のお二人に、二、三分で結構ですので、お話しいただければと思います。

市川委員

先ほど第三期教育振興基本計画の策定について説明があり、資料を拝見していましたが、今、高等学校では、新たな社会、Society5.0の話が出ていて、今後子どもたちが就く仕事は、考える職業だけが残っていつて、単純な仕事はロボット等が担っていくという話があります。

今、県立高校では、タブレットパソコンが各学校に配置されていて、Wi-Fi環境が整備されています。クラウドの中にデータが入っていれば、例えば授業で使ったパワーポイント等を家庭でもスマートフォンで見ることができます。課題を紙で配らなくても、ダウンロードすれば使えることになり、今後、学習が大きく変わっていくのではないかという印象を持っています。まだまだ過渡期ですけれども、そういった動きが急激に進んでいるという印象を受けています。

私自身もまだまだ勉強しなければいけないと思っております。

川野議長

1つ質問ですが、今、大学入試で英語科目の試験方法が話題になっています。それについてはどのように考えていますか。

市川委員

英語の問題は、9月18日から10月8日までの期間で、英検の新テストに向けて、活用システムを使った試験の事前申し込みが始まっています。大学入試は、文法や語彙数といったものが重視されていますが、スピーキングやヒアリングができる子どもたちは、その試験を受けていくことによって、随分有利になるのではないかと思います。もう一方で国は、高校卒業レベルのときに一定の英会話能力を身につけたいために取り

組むという話です。どの高校も取り組んでいて、変化しているという印象を受けています。

川野議長

ありがとうございました。私たちは報道で知る限りでしか議論が分からないものですから、現場の話を伺いました。いろいろ意見が分かれているようです。

それでは次に、渡辺委員からお願いします。

渡辺委員

私は藤沢市の子育てボランティアをしています。今の若い世代のお母さんたちの子育て事情や、親子に接するときの心得等について、研修を受け、その後、ボランティアがそれぞれ地域子どもの家に派遣をされて、週に1回、もしくは月に1回、親子の見守りをするという活動です。

保育ボランティアとは違い、親子を見守るという趣旨で活動しています。例えば専業主婦で子育てをしている方だと、家にずっとこもって、子どもと自分だけになってしまうと視野が狭くなってしまったり、あと、個人差はありますが、その結果、子どもに当たって虐待の方向に行ってしまうたり、自分の子どもだけがすごく発達に問題があるような気持ちになってしまったり、自分と子どもだけの世界に閉じこもってしまうような状況を、少しでも客観的な目を入れることによって変えられるのではないかと考えています。

実際の活動としては、来られた親子を見守って、お母さんの話し相手をしたり、子育てに少し一息つけるように子どもを見てあげたり、友達ができそうな状況であれば、同年代のお母さんたちが交流している姿を見守る等しています。その子のよいところというのは、第三者の目で気づくことができると思うので、一瞬であっても、子どもがこんなことに集中して取り組んでいてすごいと思うとか、こういうタイプのお子さんですね、すごくいい個性だと思います、みたいなことを普通の会話の中で伝えたりすることを心がけています。

友達をつくりたいという目的を持ったお母さんも足を運んでくださりますが、そうではない人も来られていることを、少し気にしながら接しています。長く続けていますと、来場者も増えてきていますし、他の子どもの家のボランティアの方の話を聞くと、本当に交流が盛んだったり、ボランティアにいろんなことを真剣に話しかけてくれたりといった事例もあるようなので、ボランティア同士の研修の場ですごく勉強させていただいています。

川野議長

どうもありがとうございました。

最後に、次回の日程をお願いいたします。

事務局

次回の定例会につきましては、11月18日月曜日、10時から正午まで、8-1、8-2会議室で開催となります。

本日は、生涯学習ふじさわプランの平成30年度進捗管理の講評という

ことで、皆様、暑い8月、9月の時期に視察、ヒアリングにご協力をいただきありがとうございました。来年度に進捗管理を継続して行う事業もあるかもしれませんがどうぞ引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

事務局

今年度の残りの定例会の予定といたしましては、11月から年明け3月までの間に2回ほど開催を予定しています。よろしくお願いいたします。

川野議長

それでは、これで終了いたします。どうもありがとうございました。

\*\*\*\*\* 午前11時57分 閉会 \*\*\*\*\*